

音きこえのノート

奈良県立ろう学校 聴能部

2023/12/1 第402号

近畿教育オーディオロジー秋の講演会が
開催されました

平島 ユイ子先生 国際医療福祉大学
『難聴児の言語・コミュニケーション指導』

〈難聴児の言語指導について〉

難聴児にとって言葉は自然に入ってくるものではなく、繰り返し入力・表出をすることによって習得できるものだといいます。言語力を培うための指導方法をいくつかをピックアップしてご紹介します。

○語彙の獲得

語彙は名詞→形容詞→動詞の順に獲得していきます。名詞はその物に対応させることで獲得することができますが、形容詞と動詞は目に見えないもの、いつも形が変化するもののため、名詞と比べると習得が困難です。

体験活動をベースに言葉の概念を形成していくことが大切です。

連想ゲーム…○○といえば△△と言葉を連想していく。目に見えるものの言葉以外にも目に見えない言葉も出していくと良い。(例：パン→白い→おばけ→こわい…など)
スリーヒントクイズ…問題に答えたり、出したり。

○読書力

色々な知識や言葉は最終的に文字から入ってきます。文字を読んで知識を深める力を育てるための取り組みの紹介です。おすすめは絵本読みです。絵本は書き言葉なので、文法や語彙が非常に多様であり、子どもの発達や興味に合わせて選ぶことができます。



学齢期には、絵本の代わりに教科書を読むこともおすすめです。小2までの教科書には日本語の基本構文が全部そろっています。また、子ども自身が興味をもって読める物(雑誌やゲーム本などでも良い)を身近に置き、環境を整えてあげることも工夫の一つです。

○構文力

絵日記や短文を書く習慣をつけ、たとえ文が間違っていたとしても訂正はしないことがポイントだそうです。特に低学年頃までは、何字かけたか、何行書けたか、何語書けたかというところに評価ポイントを置き、文の誤りは別の時間に言語指導することが好ましいそうです。なぜなら、きれいな文を書くことに意識がいき、子どもの書きたい、表現したい気持ちを摘んでしまうことに繋がる可能性が高いからです。まずは、作文意欲、表現意欲を高めてあげることです。

配列絵カードの文作り…順番に並べる・絵にはない前後を想像して文を作る



〈コミュニケーションの指導について〉

難聴者自身が相手との会話が途切れた(コミュニケーションブレイクダウン)際に、会話を継続させるコミュニケーションスキル(訂正方略)をつけることが大切です。

「え?なに?」と聞き返す力/「○○ってことですね?」と確認する構文力/聞こえた言葉を音や前後の内容から想像する力

モザイクパズルのききとり…1音ずつ聞き取り、並べ替え、何の言葉かあてる(自分の聞こえにくい音に気付く)
ききとり 電話…誰?いつ?何?と聞き返したり、確認したりする力
ききとり のりもの…外出した時に、電車放送等の内容があること、聞こえた内容の確認をすること(世の中には、必要な情報がたくさんあることの気づき)

軽・中等度難聴児によく起こることが、聞こえていないということが、聞ここうとする態度や意欲のせいにされてしまうということです。聞こえる側の理解や配慮はもちろん必要ですが、自分のきこえなさについての認識が必要です。語音聴力検査や雑音下での聞きにくさ、似た音の言葉の聞き誤り等、自分で気づける力を身につけることが大切です。また、そのようなことを学習できる環境作りも指導する側には必要なスキルだと改めて感じました。

(文責 仲村)

第57回 全日本聾教育研究大会（奈良大会）

10月19日(木)、20日(金)に本校が主管校となり、第57回 全日本聾教育研究大会が開催されました。毎年全国各地から聾教育推進のため、たくさんの方々が集まる研究大会を奈良県で開催したのは初めてのことで、今回はその概要や2日間の様子等を報告いたします。



1日目

午前、本校で授業見学を行いました。1時間目は参加者に幼稚部・小学部・中学部・高等部・寄宿舎を自由に見学していただき、2時間目に各学部での指定授業を参観していただくという日程で行いました。そして午後は郡山城ホールで各学部に分かれて指定授業の検討会などの分科会を行い、その後は開会式や記念講演として金沢大学の武居渡先生にご講演いただきました。



中学部
指定授業



中学部
分科会



開会式



2日目

全国の先生方の実践報告やテーマに沿った意見交換を行いました。会場はリガール春日野と春日野国際フォーラム薨の2カ所に分かれ、11の分科会をそれぞれ行いました。2日間で約450人の方に参加していただき、多くの参加者にとって有意義な時間となった全日本聾教育研究大会でした。

小学部
教科指導



早期教育



中高文系



(文責 山中)



ろう学校の体育大会について



11月15日(水)にろう学校で体育大会が行われました。今年度は久しぶりの全学部合同での体育大会だったこともあり、とても盛り上がりました。今回はその中で、ろう学校の体育大会ならではの工夫を紹介したいと思います。

①競技の始まるタイミングはピストルと旗を使う。

本校は聴覚障害がある子どもたちが通う学校のため、ピストルの音だけでは、スタートを切りにくい子どもたちも多くいます。そのため、本校では、スタート時にピストルを鳴らすタイミングで同時に旗を上げ、視覚的にも合図がわかりやすいようにしています。

②子どもや保護者に対して、アナウンスの手話通訳をする。

本校では、情報保障を行うため、競技の説明や休憩のアナウンスを子どもや保護者に対して手話通訳をします。

③ダンスの合図は、笛よりも太鼓を使う。

本校では、ダンスを始めるタイミングなどで笛よりも太鼓を使うことが多いです。個人差はありますが、太鼓の音は比較的聞きやすく、子どもたちへの合図として使うことが多いです。



(文責 井上)